



# 教員が研究の楽しさを語る

第241回(12/10)溝上 陽子先生推薦

ブックガイド



※掲載されている本はL棟2階 あかりんアワーのコーナーに配架されます。

## Book1

### 色彩工学入門：定量的な色の理解と活用

著者：篠田博之, 藤枝一郎共著

出版：森北出版, 2007.5

コメント：色を科学的、工学的に扱うための基礎知識が詰まっている本です。色覚メカニズムから色の定量的な表し方まで、バランスよくカバーされています。



## Book2

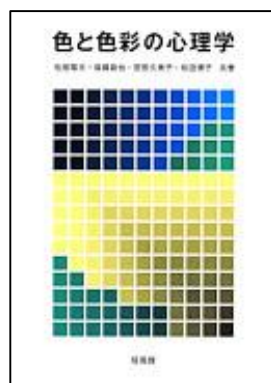
### 色と色彩の心理学

著者：松田隆夫 [ほか] 共著

出版：培風館, 2014.3

コメント：色の本なのに白黒印刷で、見かけは少し読みにくいかもしれませんが、色覚の基礎から色の見え、色彩心理まで、幅広く学術的に解説しています。

(同著者の「視知覚」もおすすめです。)



## Book3

### 色のない島へ：脳神経科医のミクロネシア探訪記

著者：オリヴァー・サククス著；春日井晶子訳

出版：早川書房, 2015.3

コメント：脳神経科医がミクロネシア島々に残る風土病の調査に訪れた紀行で、色覚を持たない人々の住む島の話が出てきます。色が見える意味とは何か、考えさせられます。

(同著者は「妻を帽子とまちがえた男」等、脳や体の機能の奥深さを示す本をたくさん執筆しています。)

